

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500344		
法人名	医療法人社団 きのこ会		
事業所名	グループホーム ローゴム		
所在地	岡山県笠岡市東大戸2712-3		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 23 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年3月より、同建物の2階の場所に新たに1ユニット(9名)増床し、2ユニットとなりました。1階はピック病専門として、2階は地域密着型のグループホームとなっていました。ピック病の入居希望者減少の為に令和1年より1階も地域密着型グループホームとすることになりました。ピック病とその他の認知症の入居者が穏やかに共同生活出来る様に職員は試行錯誤して、日々関わっています。新型コロナウイルス感染対策の為に外出などには制限はありますが、今後も感染症対策を実施しながら、この場所で四季を感じながら穏やかに生活していただけるよう、ドライブや季節行事に力を入れていきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500344-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500344-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 5 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

タイムスケジュールにゆとりを持たせ、就寝時間やレクリエーション活動内容の選択など、利用者の思いを第一に考え、「自宅での生活に近い居場所となるように配慮している。」と管理者は語った。だから、あたかも家で過ごしているかのように、眠くなるまでリビングでテレビを見てゆったりと過ごしたり、塗り絵やパズルなど適正に合わせて、好きなことをしたりして自由な居心地の良い環境となり、それが生活の張りとなっている。職員は、日常の関りや会話の中で、「利用者のことをわかり、必要な支援は何かを探しながら、パーソンセンタードケアに努めている。」だからここに居たいと思って頂ける言葉がけをしている。「第二の家としてのグループホームを目指している。」と職員からの言葉があり、管理者の熱い思いが職員の意識にも浸透している。また家族からの情報を職員全体で共有して、利用者の自己実現の手助けにも努めている。ローゴムという施設名どおり”みんなにそれぞれちょうどいい”の精神を共有し、職員と利用者、家族が其々助け合っていた。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者のあるがままを受け入れ、共感すること、その人らしく生活できるように、職員一人ひとりが法人理念を理解し、共有して接している。	1階の事務所に10のお願い、2階の事務所に運営理念を掲示している。新入職員は法人内での研修があり、理念について学ぶ機会を設けている。その人らしくのびのびとした暮らしが出来るように、職員も日々のケアを通して、利用者が安心できる居場所や環境作りにも励んでいる。	理念に触れる機会を増やしてみたいかがでしようか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染対策の為、地域の方や近隣施設との交流はあまり持っていない。グループ内の保育園のお神輿やハロウィーンの衣装などを見る機会はあり、入居者はとても喜ばれていた。	老健、ケアハウス、法人内のGH、他施設のGHが同じ敷地内にあり、散歩時に出会った方とは挨拶を交わしている。秋には、法人が運営する保育園のハロウィンに参加し、お菓子を配ったりお神輿を見たりして利用者は満面の笑顔になった。対面で運営推進会議が開催でき、民生委員や市の担当者とも顔を合わせることができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染対策の為、地域貢献の機会はなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染対策を実施しながら、近隣グループホーム、地域の民生委員、市の担当者に参加してもらい、二ヶ月に一回運営推進会議を開催している。	参加者は笠岡市職員、民生委員、法人内の他GH職員、隣接する別法人のGH職員が参加している。入居者状況、行事活動や研修報告を行った。行事の様子を写真に添付しているため、利用者様の様子が変わりやすいように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染対策について情報共有したり、事故報告書の提出・確認をしてもっている。不明な点があり、その都度問い合わせると、スムーズに対応してもらえる。運営推進会議にも参加してもらっている。	市町村との窓口は管理者。何かあれば電話やメール、FAXにて情報交換をしている。研修案内や調査項目などの連絡が入る。運営推進会議には、長寿支援課の担当者が来られるので、顔を合わせて話し合いができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことでは何も生まれないことを職員一人ひとりが理解している。どのような行為が拘束にあたるのかを定期的に勉強会で確認、意見交換を行いながら身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束・虐待防止研修は、法人全体とGH内で実施していて、外部の研修にも参加できた。ニュースや事例を基に検討をして、感染対策と合わせて実施できた。特に身体拘束に関する経過観察記録を活用して、検討会記録も残している。日中は玄関や各ユニットの扉の施錠はしていない。	スピーチロックについて、意識を高めてみたいかがでしようか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への対応を常にスタッフ間で話し合い、話題にあげることで、常に意識してケアを行っている。定期的に勉強会を実施し、虐待に繋がる不適切なケアが行われていないか日頃のケアを振り返る機会をつくっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する資料を準備し、いつでも閲覧可能なように整えている。認知症の方が利用されているグループホームの職員として、成年後見制度は身近な法律制度として理解していく必要があると感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な書類を提示、配布し説明を行っている。利用途中に行われる介護報酬の改定や加算の増減などの利用料に関することは、文書だけの同意でなく、口頭での説明を行って納得していただいている。また、不明な点や質問をいつでも受け付けられる環境を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染対策の為面会自体が少なく、家族の意見を聞く機会自体が少なかった。その中でも、面会時は積極的にコンタクトを取り、入居者の現状を包み隠さず報告、内容をすぐ記録に残すようにしている。職員全員が家族の思いを周知し、サービスにつなげるよう努力している。	面会は玄関先で対面で実施できていて、全員の家族が会いに来られた。何かあれば電話にて近況報告をしたり、写真を添付して様子がわかるように工夫したりしている。利用者が好きな、みたらし団子やお饅頭、黒飴などの差し入れもあり、活動量が低下しないように運動やレクリエーションなどを行って、現状維持に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間の合間に提案や意見交換する機会を作り、運営に取り入れている。また、連絡ノートや介護記録などを通じて、管理者がスタッフの思いをくみ取り、個別に意見を聴く機会も設けている。	気づいたことがあれば、介護記録や連絡ノートを活用して、情報共有をしている。管理者は介護職を兼務しているので、職員や利用者の状況を把握しやすい。勤務変更が出た際には、職員同士で話ができる関係が形成されている。GH内で解決が難しい場合には、法人に相談する場合もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、法人管理職との情報交換を都度行っており、職員の意見や要望を伝える機会を設けている。また、自ら考えて行動できる環境を整え、いつでも相談できるような信頼関係を築き、働き甲斐のある職場作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染対策を実施しながら、法人による社内研修、グループホーム独自の勉強会、社外研修に参加することが出来た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、二ヶ月に一回開催される同法人グループホームの管理者が集まるグループホーム部会に参加し、情報及び意見交換を行えた。		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからはまず、職員が入居者の思いをくみ取り、「ここに居てもいいんだ」と安心してもらえるように関わっている。また、担当職員を決め、その職員を中心に、入居者と一緒に生活環境を整えたり、不安を解消するケアを展開する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初から全ての情報を把握するというよりも、入居後の面会などを通じて、徐々に信頼関係を築いていき、何でも話せる環境作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に知っている情報だけに頼るのではなく、入居後に家族の方から得られた情報や入居者の今の状態をその都度記録に残し、職員全員で共有できるようにしている。そして、担当職員が中心となり、入居者にとって過ごしやすい環境が提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを忘れず、常に尊敬の念を持って接している。相手の立場を思いやり、入居者が「ここに居てもいいんだ」という安心感を持って暮らしていただけるような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者にとって家族はかけがえのない存在なので、コロナウイルス感染対策を実施しながら面会をしている。電話や手紙で近況を伝えることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染対策を実施しながら面会をしている。ドライブをして、住み慣れた地域などを巡るなどの支援も行っている。	面会は玄関先で対面で実施していて、全員の家族が会いに来られた。ドライブがてら、地元の神島で海を眺め、沙美海岸や嫁いらず観音へ出掛けて昔馴染みの風景を堪能できた。実家付近を通った際には、道案内してくれた方もいる。携帯電話を持ち込まれている方もいて、家族や友人との会話を楽しんでいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で入居者一人ひとり人間関係があるので、トラブルなど無いよう、必要に応じて、職員が間に入り声かけを行っている。レクリエーションなどでも同様に関わり、馴染みの関係を築くことが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力病院への入院や在宅復帰という形でサービス利用の終了を迎えても、電話などを通じて、その後の経過を把握して、相談援助に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をうかがえない方が多い中、担当するスタッフを中心として意見を集め、日々の暮らしの中からその人らしさがあるケアを提供していけるように努めている。	入居前に、連携シート「むすびの和」を活用したり、家族から聴取したりして情報を得ている。気になることがあれば、家族に確認するようにしている。利用者と同じ目線に立ち、寄り添う姿勢を大切にしている。利用者の日常の様子からも思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時や電話での会話の中で、本人に関する話を伺い、その都度介護記録に残すことで情報共有している。その情報をもとに、その方の可能性を引き出せるようなケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録では、毎日のバイタルやスタッフ自身の意見・感想を記入するようにすることで、職員全員がいつでも意見および情報交換出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に、入居者が抱えている課題や家族の意向や要望に常に目を向け、可能性を見いだせるようなケアプランの作成に取り組んでいる。	3ヶ月毎にカンファレンスを実施していて、状態確認やアセスメントを行っている。何かあればその都度変更している。ケアプランは6ヶ月毎に更新している。長期目標が6ヶ月、短期目標を3ヶ月としている。モニタリングは3ヶ月で更新している。ケアプラン作成時には、利用者や家族の要望にできるだけ添えられるように配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの記録に、スタッフの意見、気づきや思いを書くことで情報を共有し、より良いケアへつながるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の美容師に出張を依頼して散髪してもらったり、行楽地へのドライブ、季節行事の実施など、日常的に幅広いサービスが提供できるような取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染対策の為、地域資源を活用する機会はなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内にある病院より、月一回の往診および年二回の健康診断、予防接種などを実施している。また必要な方には、訪問歯科を定期的にご利用していただいている。常に必要な医療が受けられるよう情報を共有しており、より入居者の希望や要望に応えられるよう支援している。	母体の病院とは、24時間連携が取れるので、安心できる体制となっている。往診が月1回あり、必要に応じて、病院から看護師の派遣もある。歯科往診は月1回ある。重度化した場合には、病院と連携を取りながら話を進めている。他科受診は、家族の方に付き添って頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を把握し、昼夜問わず母体となっている病院看護師との連携強化を行うことで、より広い視野を持って入居者の生活を支えている。また、医療行為等が必要と判断した場合はすぐ連絡をとり、適切な処置を行えるような支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護記録に入院中の様子を記入、現在の様子を把握することに努めている。その後の退院に備え、スムーズにグループホームで暮らせるよう、病院関係者と連絡を密にとるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化によって、医療面のサポートが不可欠になった場合のことを考え、事前に主治医・本人・家族と話し合いを行うことにしている。日常生活の中で、入居者の状態を見ながら協力病院と連携を図り、主治医に報告・相談する体制を整えている。	母体の病院と連携して、重度化した場合には病院に移って頂くようにしている。入居時に、重度化に対する家族の意向の確認をしている。終末期を迎えるにあたり、医師から家族に説明を以って安心して頂いている。出来る限り施設で過ごして頂けるように配慮し、医療行為が必要な際には、病院に依頼して看護師の派遣もして頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、いつでも見る事が出来るようにしている。急変時には、敷地内にある病院と連携が取れる状況を作っている。新型コロナウイルス感染症に対しても同様の対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルを作成、年2回のグループ全体の避難訓練の実施と災害に対して対策、訓練に備えている。災害用の備蓄も定期的に管理している。	法人全体で年2回、昼夜想定で火災訓練を実施した。GH単体で行う際には、避難経路の確認を行った。連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、エレベーターホールに水や食料を3日分保管している。期限間近の物は、利用者と一緒に食してフードロスをなくしている。法人施設でも備蓄は保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の発言、入居者への声かけや対応をプライバシー保護の観点から常に考えられるよう、お互いにチェックできる環境作りに取り組んでいる。	呼称の基本は、苗字か下の名前に「さん」付けて呼んでいる。入居者の前では大きな声を出さず、周りに気づかれないように配慮している。親しい関係でありつつも、敬う気持ちを忘れないようにしている。排泄失敗時には、「気にせんでええよ」とさりげなく優しく言葉掛けをするようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナウイルス感染対策を実施しながらでも、日常生活の中で入居者の方がやりたいことなどを聞き、希望が叶えられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの生活パターンを把握し、気持ち良く過ごせる事を第一としている。その日の体調や様子に応じて、柔軟に対応できる様に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や髭剃りなどの整容、その方に合った衣類など、入居者一人ひとりが個性的で、お洒落な装いが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理中の様子を五感で感じていただけるよう、リビングでの過ごし方を工夫している。食事中は、互いの顔が見られる空間で、楽しく快適に食事が出来るように取り組んでいる。行事や誕生日の時などはケーキなどの飾りつけと一緒にして楽しんでもらう様にしている。必要に応じてコロナウイルス感染対策を実施、密を回避、飛沫に注意している。	食事は3食手作りで提供している。誕生日には、利用者にケーキを自由にデコレーションして頂く工夫をしている。正月、節分、クリスマス等の行事には、利用者の好物である手鞠寿司やちらし寿司、赤飯などを提供している。家族から利用者の好きなおやつや果物の差し入れもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの方に応じた水分量を一日の間でしっかりと補給できるように取り組んでいる。個々に応じた食事形態や提供の仕方を工夫している。また、食事量の変化を見逃さないよう、記録に残して対応している。とろみが必要な方へは、適度な加減になるように調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科で、歯科医、衛生士による専門的なアドバイスも受けやすくなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表に記入、入居者一人ひとりの排泄パターンを職員全員で把握することで、トイレで自然な排泄ができるよう取り組んでいる。	居室にトイレが付いている。排泄チェックは毎日職員が清掃した際に確認している。排泄介助や管理が必要な方へは、職員が気を付けて対応している。排泄チェックシートを活用して、なるべく薬を使用しない様に、オリゴ糖を摂取するように工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の検討、日常的な運動を行い、入居者が必要最低限の下剤服用で、スムーズな排便を促せるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりがゆっくり入浴出来るように、時間に余裕を持ったケアをするように取り組んでいる。安全に配慮、必要に応じた声掛けをしながら、気分転換になるように会話をするように心掛けている。	週2回の提供。菖蒲湯や家族から差し入れされた柚子を使って季節湯を堪能できた。ほとんどの方が浴槽に浸かることができ、ゆったりとした時間が過ごせている。同性介助にも対応していて、入浴を拒否される方へは、決して無理強いはしない方針としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとり生活リズムは違うが、適度に運動出来るよう関わり、必要なら適度な昼寝の時間を設けることで生活のリズムを整えて、夜間の安眠および休息を支援している。夕食後から就寝まで自由に過ごしてもらうことで、入眠しやすい環境も整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の管理、使用を徹底している。関係医療機関と連携を図り、症状の変化によって減薬、処方薬の見直し等を考え、主治医および看護師、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルス感染対策実施しながら、外出やドライブと一緒に掛ける、花壇にお花を植えたり、花瓶に生けたり、歌と一緒に歌を歌うなど、それぞれの楽しみに合わせたケアに取り組んでいる。それに加え、洗濯物たたみなど家事の手伝いをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染対策実施しながら、入居者一人ひとりに応じて歩行器、車椅子など使用して散歩に出かけたり、気分転換を図る為にドライブなどにも行っている。	近隣の馴染みある場所へドライブに行き、懐かしい風景を楽しんで頂いている。利用者と一緒にゴミ捨てに行き、施設の周りを散策して他施設の方々と挨拶を交わしている。事業所内の保育園児がハロウィンにて施設を訪れ、笑顔の交流できた。気候がいい日には、テラスでお茶をしたり、日向ぼっこをしたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染対策の為、入居者は買い物などへは行くことが難しいので、直接お金を使う機会はないが、必要な物があれば職員が代わりに購入し、要望に応じている。預り金使用した分は出納帳に記入、コピーを家族へ送り、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルス感染対策実施しながら面会をし、なかなか会えない家族へは手紙と一緒に書いたり、家族の方からかかってきた電話に本人も出てもらうようにして様子が伝わるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすいようテーブルや椅子を配置し、壁に季節感のあるものを飾っている。また、観葉植物などをさりげなく配置して、生活に安心感を与えられるよう配慮している。コロナウイルス感染対策の為、密にならないようにしている。	午前中はリハビリ体操をしたり、利用者の特性や嗜好に合わせた塗り絵やパズル、習字などのレクリエーション活動をしたりしている。インターネットを活用してクイズや時代劇、歌などの映像を流して興味を持って頂けるように配慮もしている。職員と一緒にプランターに植えた花をリビングに飾って楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには雰囲気合わせたテーブル、椅子を配置し、入居者の関係性を考慮しながら、穏やかに過ごせるように座席を検討する等の工夫をしている。ソファもゆっくり過ごせる様に、テレビ前に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は、入居者の状況に合わせて配置を変えている。昔から使っていた物、写真、オーディオ、仏壇などを必要に応じて持ち込んでもらい、落ち着いた過ごせる環境作りに取り組んでいる。各居室にトイレが備わり、落ち着いて排泄できる環境を提供している。	備え付けは、ベッド、タンス、エアコン、照明、カーテン、机、ソファ、車イス対応のトイレ、洗面台。ラジオを聴き、スクラッチアートや折り紙を楽しんでいる。仏壇に手を合わせて、家族に思いを馳せている利用者もいる。壁面には、書展に出品した際の賞状が飾られている。居室とトイレは毎日職員が清掃しているので、清潔さが保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り歩けるよう介助する為、人がすれ違えるほどの廊下の広さを確保している。長時間同じ姿勢にならない為に違う硬さの椅子を用意している。部屋やトイレが分からなくなる入居者の方のために表札を付けたり、歩行が不安定な方の為に廊下や浴室に手すりを付けたり、家具の配置を工夫したりといった取り組みを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				